

土浦第四中学校 創立 73周年創立記念日を迎えて

昭和27年6月10日（時の記念日）に開校式を挙行しました。この日を創立記念日として、今年、土浦四中は創立73周年を迎えます。生徒の皆さんは、長い歴史と伝統を受け継ぎつつ、新しい伝統を創り出す「今」をどう過ごしていますか。皆さんが過ごすこの学び舎では、多くの生徒たちが学び、成長し、立派な社会人として巣立っていきました。73年という長い年月の中で築かれた伝統と誇りは、現在の私たちにも受け継がれています。

校歌に込められた思い

本校の校歌は創立から3年後（昭和29年）に制定されました。校歌には、この学校の歴史と精神が詰まっています。校歌はただの歌ではなく、私たちの心を一つにする大切な存在です。歌詞の中には、「**素朴 自治 勤労**」の校訓、素朴の心の花を咲かせる温かさ、志に向かって鍛えぬく強さ、平和と理想を開き行く未来への希望が込められています。校歌を歌う際は、その思いを感じ取りながら、心を込めて歌い上げたいですね。

学校カラーのエンジ色

我が校のシンボルとも言えるのが、学校カラーのエンジ色です。このエンジ色は、強さと熱量、誇りを象徴しています。制服や体育服、そして校旗にも使われているこの色は、私たちの一体感を生み出し、どこにいても「我が校の生徒」としての自覚をもたせてくれます。

伝統校としての誇り

73年の歴史の中で、多くの行事やイベントが積み重ねられてきました。体育祭や音楽会、部活動など、どれもが私たちの学校の伝統を彩る大切な要素です。これらの活動を通じて、生徒たちは互いに協力し合い、成長してきました。皆さんも、これからの学校生活でこの伝統を大切に、自分たちの手で新たな歴史を築いていってほしいと思います。

みなさんの先輩にはこんな凄い方も！



5月31日に**四中第一期卒業生の舟橋慶一様**がご来校されました。舟橋さんは、四中卒業後、元日本教育テレビ、そしてテレビ朝日のアナウンサーになられ、プロレスの実況中継などでご活躍されました。かの有名なアントニオ猪木さんのキャッチフレーズ「燃える闘魂」は、舟橋さんの命名なのです！古舘伊知郎さん等の後輩が育ち、現役を引退されました。舟橋さんは、中学時代に級友に「俺はアナウンサーになる！6年後、アナウンサーになって再会しよう！」と宣言し、その夢を実現させるべく努力をされたそうです。**夢をもっていると人は強くなる！**まさにそれを体現された方だと思います。その舟橋さんがご来校され、当時の四中での思い出をたくさん語っていかれました。第一期生の卒業アルバムを見ながら、鮮明に思い出される当時のエピソードを校長先生に満面の笑みで語られたそうです。舟橋さんは、四中校歌をご存じなかったため、9年生が壮行会で歌った校歌を動画でご覧になり、大変感動されていました。そして、この四中の第一期卒業生であることへの誇りも語られていきました。校長先生は、母校を誇られるそのお姿に大きな感動を覚えたと話されていました。

創立73周年という節目を迎える今年、私たちは改めて学校の歴史と伝統に思いを馳せるとともに、未来に向けて新たな一歩を踏み出し、新たな伝統を作っていきます。校歌に込められた思いを胸に、エンジ色の誇りをもって、「素朴 自治 勤労」の精神で共に歩んでいきましょう！



闘い抜いた総合体育大会

9年生の集大成となる総合体育大会、どの部活も目標を掲げ、頑張り抜きました！たくさんの感動をもらった大会となりました。人を感動させられる力をもっている生徒達に誇りを感じた大会ともなりました。保護者の皆様にも、送迎へのご協力や全力の応援をたくさんいただき、本当にありがとうございました。結果は様々ですが、3年間やり抜いたこと、全力で挑んだこと、この経験がこれからの様々な場面で背中を押してくれることと思います。四中生、自分たちの結果と『顔晴り』に誇りをもって前へ！

卓球の部 団体戦 男女共に惜敗
個人戦 女子シングルス第1位 (県南へ)
第6位 (県南へ)

バレーボール女子の部 予選リーグ惜敗
バレーボール男子の部 vs.二中 惜敗
vs.三中 惜敗

バスケットボール男子の部 vs.五中 49-63 惜敗

剣道の部 男子団体第3位 (県南へ)
個人第5位 (県南へ)
女子団体第2位 (県南へ)

柔道の部 男子団体準優勝
個人 第1位 (県南へ)
第3位 (県南へ)
女子個人 第2位 (県南へ)

軟式野球の部 vs.都和・新治 0-3 激闘惜敗
第3位 vs.二中・五中 4-1 熱闘勝利

サッカーの部 vs.都和・二中 0-4 惜敗
バドミントンの部 団体戦女子第3位 (県南へ)
個人戦シングルス第2位 (県南)
ダブルス第3位 (県南へ)
団体戦男子第3位 (県南へ)
個人戦シングルス第2位 (県南へ)
シングルス第5位 (県南へ)

ソフトテニスの部 女子団体第5位 (県南へ)
個人2ペア (県南へ)
男子団体 決勝トーナメントで惜敗
個人第4位、第5位 (県南へ)
STC個人第1位、第2位、第3位 (県南へ)



どの部も「やればできる！」という成長を見せてくれました。総体期間中、学校でエールを送っていた生徒達は、奉仕作業等で学校に貢献してくれました。大会会場でも奉仕作業でも、「四中愛」を感じさせてくれた生徒たちに「ありがとう」がいっぱいです。

今年も継続します ルールメイキング

右のグラフのように、ルールメイキングに対して肯定的な捉えをしている生徒が8割を超えています。具体的な言葉での振り返りを見てみると…

- ・四中を良くするために自分たちが出した意見が、先生や近所の方々から了承を得て校則が変わると、これから今まで以上に頑張ろうという気持ちになった。
- ・自分たちの意見が校則を変えられるということを実感した。
- ・校訓を学校全体で表せるような校則を増やしたい。
- ・一度ではなく、何度も話し合いを重ねていくことが必要だと思う。
- ・他の学校の校則を見て、自分の学校にも取り入れてみるのもいいと思う。
- ・クラスのみならず話し合うことで、クラスのみならず仲間が深まるのでルールメイキングは良いと思う。
- ・校則について考えたことで、一人一人が考えて行動することが増えたように感じる。
- ・みんなで意見を出し合うことの大事さを感じた。
- ・いろいろな価値観や考えを学ぶことができるから良いと思った。
- ・自分たちで話し合って物事を決めるといのは、社会に出るうえでとても大切だと思った。
- ・校訓の自治の精神にも繋がる活動だと思った。

生徒達の学ぶ力の大きさを感じました。7年生はまだルールメイキングの話し合いを体験していないので、これらの意見も参考に今年も継続して続けていく予定です。自分たちの学校を創り上げる愉しさを！

昨年度、全学級で実施したルールメイキング。四中の伝統を受け継ぐために、四中生らしさとは？を考えるために、生徒会を中心に、全校生徒で校則の見直しをした結果をお知らせいたします。

